

スポーツクライミングスピード

Road to
2020
KANAGAWA

緒方^(神大)が日本新

スポーツクライミングで高さ15分の壁を登る速さを競うスピードの競技会が12日に東京都内で開かれ、緒方良行（神奈川県）が男子の日本新記録となる6秒373をマークした。「自分の武器」と自負する種目で実績を残し、ボルダリング、リードを含めた3種目の複合で争われる2020年東京五輪の出場権が懸かる8月の世界選手権（東京都八王子市）代表入りへ弾みをつけた。

世界代表へ弾み



スピードの競技会で男子の日本新記録を出し、喜ぶ緒方
＝12日、東京都内

今年に入って、どの種目も好結果が出ず苦しんでいたが、周りの選手からボジティブ思考を勧められ「やっているうちにどんどん自信がついてきた」という。スピードでは持ち味の手足の運動性を発揮し「6秒5の壁を（日本人で）初めて破れた」と頬を緩めた。日本代表の安井博志ヘッドコーチも「各ハートの正確性、手足の俊敏性が上がったと目を細める。」

福岡県久留米市出身の21歳で、17年に国際総合大会ワールドゲームズのボルダリングを制した実力の持ち主。世界選手権の複合代表になるには複合ジャンパカップ（25、26日・愛媛県西条市）での上位進出が求められるが、スピードでも力を付けた緒方は檜崎智亜（TEAM M a u）ら日本の主力勢にとっても脅威の存在になる。

五輪出場権を懸けた戦いに向け「均衡したトップの選手層に自分も入っている」と自覚している。自信を持つていくしかない」と鼻息は荒い。